



JR西労組のLINE登録をしよう!
QRコードとID検索機能
@dzc0159s

西日本旅客鉄道労働組合 大阪地方本部 〒543-0055 大阪市天王寺区悲田院町10-67

TEL(NTT)06-6773-3192 (JR)074-3191~3
FAX(NTT)06-6773-3194 (JR)074-3194

●発行責任者/禪野 康 ●編集責任者/安倍大貴

新年のご挨拶

あけましておめでとございませう
皆様には健やかに新年を
お迎えのこととお慶び申し上げます



大阪地方本部 執行委員長 禪野 康

旧年中はJR西労組大阪地方本部の諸活動に多大なるご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

公共交通機関としての使命を果たし、昼夜を問わずJR西日本グループの安全安定輸送を担っていただき、また、年末年始輸送の完遂に向け、ご尽力いただいていることに敬意を表します。

今年も組合員の皆様とともに、安全を最優先に、益々魅力と求心力ある地方本部を創つてまいりたいと思っております。

新年を迎えるにあたり一言ご挨拶申し上げます。
1.ポストコロナ社会への対応
ポストコロナに向けて社会経済活動が加速してきたこともあり、JR西日本グループの2022年度決算は2年ぶりに黒字転換を果たすことができました。

開業や大阪駅西エリアの開業、大阪関西万博に向けたプレ大阪DCの開催など明るい話題も多くあり、JR西日本グループの施設も多くのお客様にご利用いただけるチャンスの年になります。

組合員一人ひとりにとって、幅広い経験ができる成長のチャンスであると思っております。特に万博への輸送については、近年、われわれが経験していなかったような大規模、かつ、長期間のお客様の流動が想定されます。

ポストコロナ社会へ向け、今後も社会の大きな変革が想定されます。安全を基礎とすることを前提に、ポストコロナ時代の社会変容を受け止め、社会のスピードに遅れることなく労使でこれまで以上に議論を重ね、組合員が誇りと使命感を持って働き続けられる環境の構築に向け取り組みを進めていくこととします。

2.更なる職場からの安全確立
福知山線列車事故から今年で19年となります。すべての組合員が安全最優先の重要性を理解して職場から取り組みを進めていますが、不断に実行するのは決して容易ではありません。昨年4月からは「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」がスタートしましたが、計画初年度の8月30日に近江塩津構内において感電死亡労災が発生。さらに、12月5日には踏切停止手配員が貨物列車と接触する痛ましい死亡労災が発生しました。

に臨んだ結果、JR西労組初となる「べア」満額をはじめ、地上職で働く社員に対しても、手当の増額を勝ち取るなど大きな成果となりました。

2024春闘では、2023春闘で勝ち取った「べアアップ」を中心とした「賃上げ」の勢いを止めることなく、離職防止と採用競争力の向上、働き方の改善を意図し、労使で「人材の投資」の議論を深めていかなければなりません。

4.魅力と求心力あるJR西労組を創ろう
長引くコロナ禍では、様々な不安を抱える組合員に対して、職場からJR西労組運動を献身的に取り組み進めていくことに感謝申し上げます。

5.政策実現に向け政治への理解参加を深める
地方ローカル線の課題をはじめとした産業(交通)政策は、政治と密接に関係しています。

3.2024春闘に向けて
2023春闘では、離職防止と採用競争力の強化、継続的な賃上げを掲げて未だ未だ春闘として交渉

本年もよろしくおねがいします 大阪地方本部執行部一同

Grid of executive committee members with photos and names: 川勝 透貴, 岡田 忠士, 川原 晃一, 白井 聖二, 寺井 竜司, 内田 通, 細田 春菜, 谷口 博一, 安倍 大貴, 村瀬 徹朗, 猪狩 孔隆, 松本 憲亮, 北原 奨也, 山下 衿緒, 天羽 晃平, 淵脇 文明, 高橋 良樹, 中島 健太, 森本 勝広, 山根 正和, 水野 誠, 松本 成生, 玉置 大樹, 森本 大介

- 会計監査委員: 絹田 雅樹, 吉田 太郎
大阪地方本部: 小谷 幸代, 榎崎 美紀
天王寺支部: 横田かおる, 前田 利江

をすすめていきたいと思っております。
昨年7月からは、主たる共済である「交連共済」から「こくみん共済coop」へ9割以上の方が移転することができました。ご尽力いただきました皆様には感謝申し上げます。
今年からはJR西日本グループの仲間にも積極的に参加していただくことを目指します。4月には新卒者を中心に約1500名の社員が入社されることをご予想されています。全員の仲間になることを目指し、支部地本が連携して取り組むこととします。
私たちが働く環境が大きく変わっても、労働組合の役割目標は何ら変わるものではありません。今後とも様々な施策が実施され、組織体制のあり方についても現行の体制を前提に、つづいて将来に向けて考えていくことも想定されますが、組合員との会話を大切にJR西労組の存在感を発揮し、地方本部が先頭に立つて運動を進めていくこととします。